

令和6年度 佐世保市中学校体育大会サッカー競技

競技方法の検討について

1. 競技方法

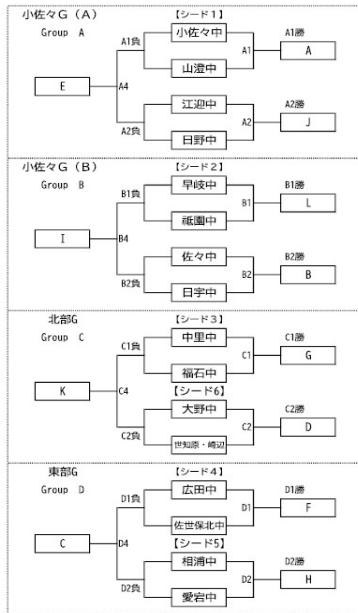
(1) 今年度までの形

佐世保市中体連では、試合を最低2回できるように競技方法が決められていた。

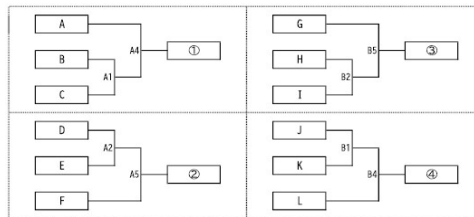
※個人1 + 団体1、予選リーグ、☆敗者復活方式 = サッカー競技採用

試合機会の確保等の教育的配慮が根本の理念にある。

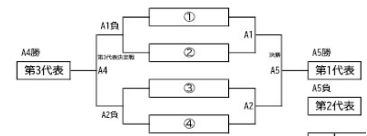
1日目敗者復活方式



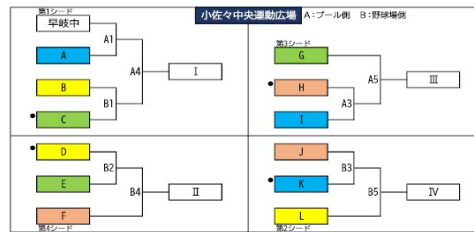
2日目 16チームの場合



3日目



17チームの場合



【長所】

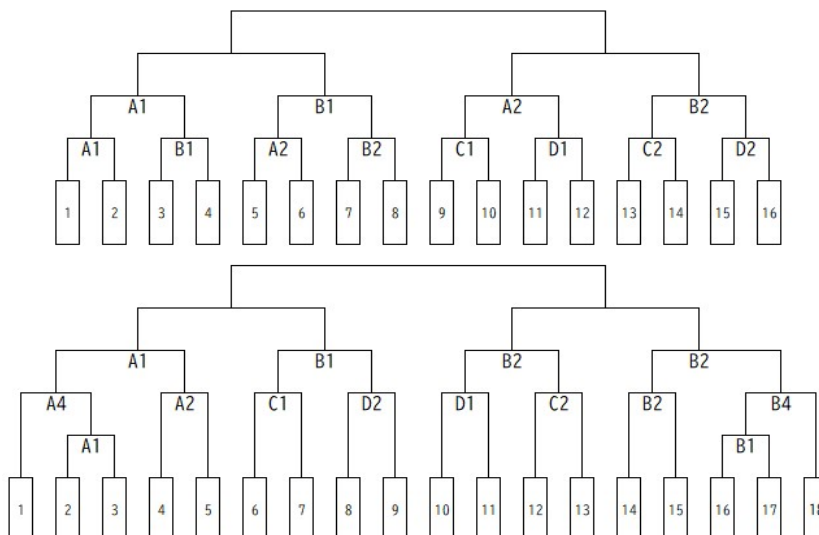
- ・シード校の対戦チームももう一度チャンスがある。(試合機会の確保ができる)
- ・2日目に参加できるチームが多い。

【短所】

- ・1日目の会場が4会場必要になり、北部や東部グラウンドは運営が手薄になる。
- ・2日目の試合数が多くなり、終了時刻が勤務時間に迫る。
※クーリングブレイクの導入やPK戦があるとオーバーする。
- ・12チーム残すことでシード校が大幅に有利になる形式となる。

(2) 検討する対案

完全トーナメント形式



- ・チーム数
本年度新人大会15チーム
最大18チームを想定
※来年度聖和中参入
- ・2日目を準決勝まで消化すると、3日目は決勝と第3代表決定戦の2試合。
※国際大の借用ができれば
2日目準々決勝のみ
3日目準決勝と決勝、
第3代表決定戦

※A、B：小佐々
C：北部
D：東部

【長所】

- ・1会場の試合数が少なくなる（C会場D会場は1会場でも実施可能）
- ・3日間ともに余裕のある運営ができる。※敗退チームの指導者の協力は必要。
- ・シード枠の極端な有利性を無くせる

【短所】

- ・1試合で終了するチームが多くなる。
- ・4会場で行うと運営面で手薄になる。※3会場（小佐々2+1）で3試合でも対応可能
- ・16チームを超えた場合に小山（1日目に2試合）が発生する。

(3) その他の対案

○1日目リーグ戦 → 8チーム進出（1位+2位の上位）

※1日目の会場および試合数が多くなり運営の負担増になるが、2試合確保できる

2. 抽選内規（シード方法）

(1) 現在の形

- ・リーグ順位をもとにシードを決定。ただし、Divisionが異なり対戦がない場合は新人大会の結果を優先する。

【長所】

- ・半年間の結果でシードを決定しているので妥当性が高い。
- ・新人大会の結果も考慮するため、その年度のみ**の**強さも反映できる。
- ・リーグ戦の重要度も高くなる。

【短所】

- ・現在のリーグの方式ではTRM等が実施できる日程が少ないが、リーグ戦のウェイトが大きいため、出場機会が限られる選手が出やすい。
- ・今後、県北リーグの見直しを行った際に、不具合が生じる。
- ・県北リーグと新人大会の2つをもとに決まるために分かりにくい場合がある。

(2) 検討する対案

- ・新人大会の結果のみを採用し、4チームにシード権を与える。

【長所】

- ・分かりやすい。
- ・リーグ戦でいろいろな選手を試せる。

【短所】

- ・12月～3月の伸び率が考慮されない。
- ・4チームのみのシードとなるので、1回戦から強者同士の対戦も生まれることもある。

○市中体連事務局より、今後の競技方法の検討をしてほしい旨を伝えられています。大会全体の時間や各学校の残留生徒への対応、競技人口等の変動（他競技）を受けてのことだと思えます。

- ・必ず変更を行わなければならないということではありません。
※現在の方式で行うにも工夫が必要ですが。
- ・対案として出しているのは専門委員としての私見であり、議論のたたき台になればという提案です。それぞれの先生のご意見を伺いながらよりよい方式を決められればと思っています。
- ・新人大会監督会議（抽選会）時に審議を行う予定です。自チームのコーチや他チームの指導者と県北リーグ等で意見交換をしていただくと助かります。